

2014年3月期 決算説明会資料

2014年4月28日

NECキャピタルソリューション株式会社



NECキャピタルソリューショングループビジョン

**お客様と共に、社会価値向上を目指して、
グローバルに挑戦するサービス・カンパニー**

1. 2014年3月期 実績報告

1) 連結決算ハイライト

【事業環境】

- ・リース取扱高は前年比増加するものの異次元の金融緩和により料率競争激化
- ・資金調達環境は引続き良好な状況を維持
- ・倒産状況については、負債総額・件数共に前年比減少

【営業トップライン】

- ・賃貸・割賦事業については、契約実行高、成約高共に前年比伸長

<賃貸・割賦事業>

契約実行高: **15.7%増** (小口除く **16.3%増**)

成約高 : **1.7%増** (小口除く **2.2%増**)

<営業貸付事業>

契約実行高: **14.8%減** (一括ファクタ除く **10.4%減**)

成約高 : **15.0%減** (一括ファクタ除く **10.8%減**)

【経営成績】

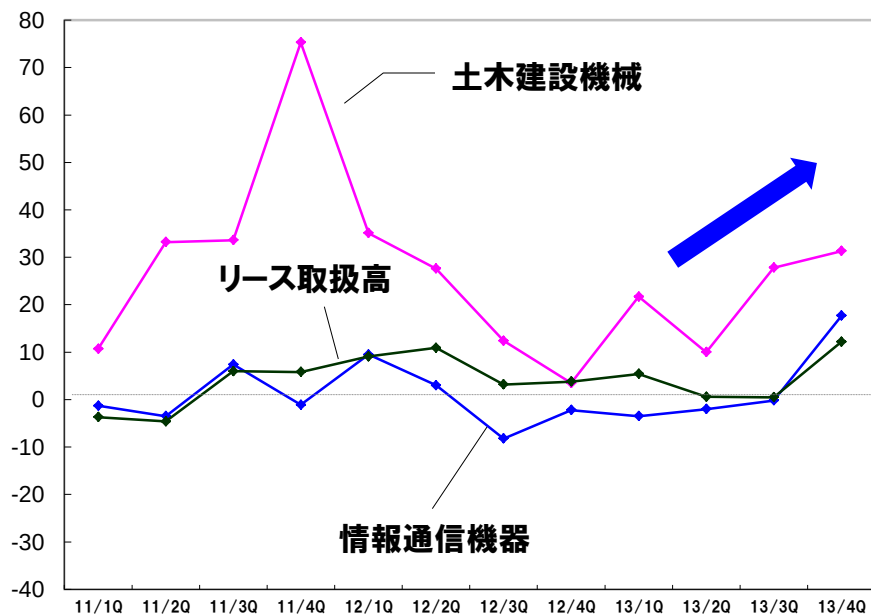
- ・予想を若干は下回るものの、ほぼ想定通りの進捗となった

1. 2014年3月期 実績報告

2) 事業環境

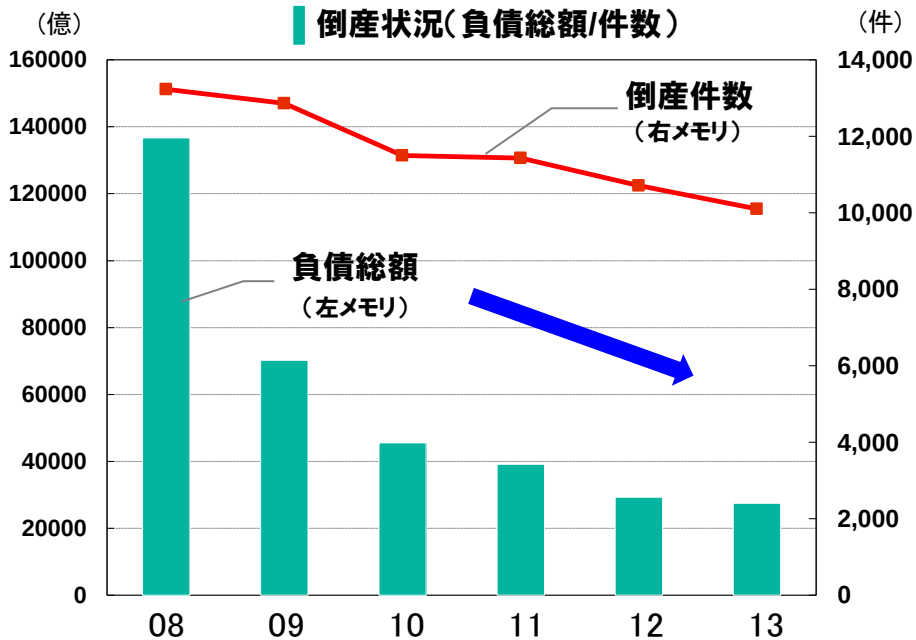
- リース取扱高: 当社の主力である情報通信機器については前年比1.4%の微増
土木建設機械や産業機械が好調に推移していること等から、
業界全体のリース取扱高は、前年比3.7%の増加となった
- 倒産状況 : 当会計年度における負債総額は、過去10年で最小
また、倒産件数についても5年連続の前年度比減少となった

■ リース取扱高の足元の動向(前年同期比推移)



(社団法人リース事業協会:リース統計)

■ 倒産状況(負債総額/件数)



(帝国データバンクHP:倒産集計より)

1. 2014年3月期 実績報告

3) 業績概要(連結)

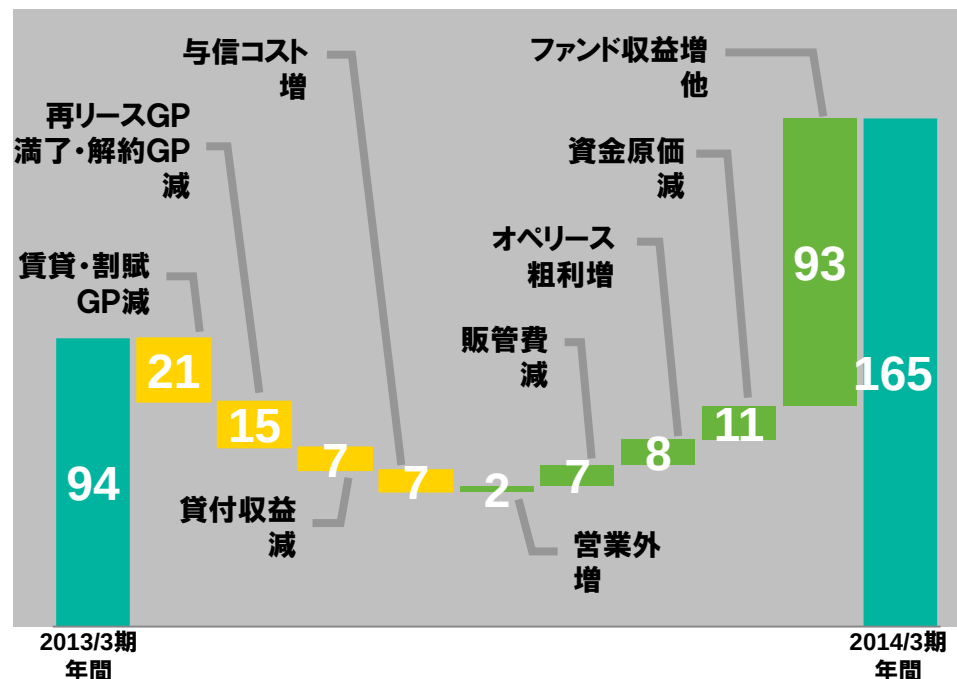
- ・売上高 : 売上高はほぼ前年並みを確保
- ・経常利益 : アセットの利回り低下に伴い、リースGPが前年比減少となったものの、販管費・資金コストの削減、並びに、大型のファンド収益計上により、前年比76.2%増
- ・自己資本比率 : 8.2%(12/3末)→9.3%(13/3末)→10.2%(14/3末)

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
売上高	2,292	2,283	▲0.4%
営業利益	91	161	75.9%
経常利益	94	165	76.2%
当期純利益	43	50	15.2%
1株当たり当期純利益	201円23銭	231円78銭	—
営業資産残高	6,488	6,178	▲4.8%
純資産	797	786	▲1.4%
自己資本	678	717	5.8%
自己資本比率(%)	9.3	10.2	0.9
1株当たり配当金(円)	22	22	—

経常利益前年比主要増減要因

(単位:億円)



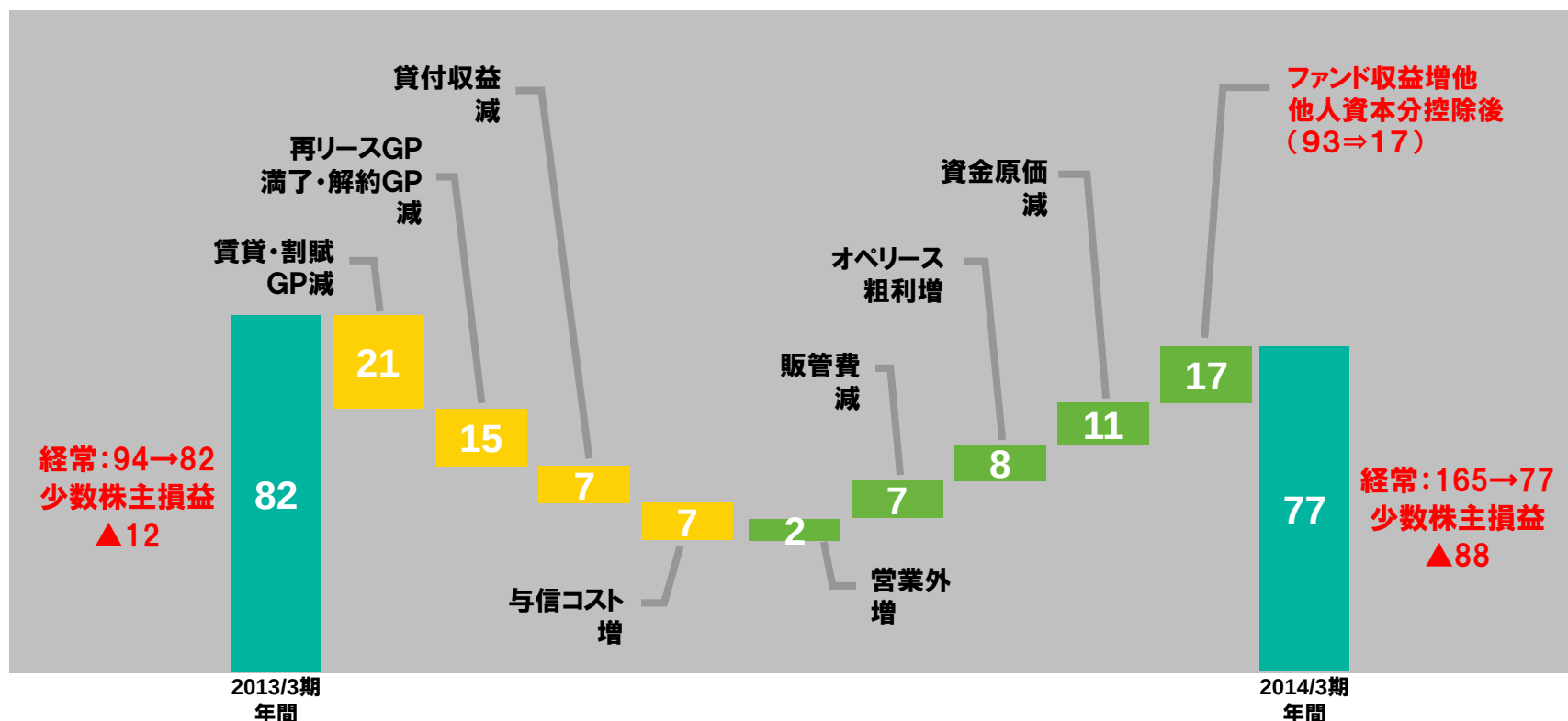
1. 2014年3月期 実績報告

参考) 業績概要(連結) 少数株主損益控除後経常利益

- ・少数株主損益を除いたNETベースの経常利益は、前年比6.0%減の77億
- ※少数株主損益とは、ファンド収益の内、出資を募った他人資本の取分。これを控除した部分がNETベースの収益となる

経常利益(少数株主損益除く)前年比主要増減要因

(単位:億円)



1. 2014年3月期 実績報告

4) 事業別収益(連結)

事業別収益

(単位:億円)

		2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
賃貸・ 割賦事業	売上高	1,828	1,793	▲1.9%
	売上総利益	147	135	▲8.2%
	営業利益	107	76	▲29.3%
営業貸付 事業	売上高	43	34	▲20.2%
	売上総利益	35	24	▲32.3%
	営業利益	12	20	61.1%
リサ 事業	売上高	276	276	0.1%
	売上総利益	42	144	247.7%
	営業利益	1	99	-
その他の 事業	売上高	176	181	2.4%
	売上総利益	16	2	▲87.8%
	営業利益	▲8	▲20	-
計	売上高	2,292	2,283	▲0.4%
	売上総利益	232	305	31.1%
	営業利益	91	161	75.9%

※短信セグメント情報のうち、「調整額」を除いて表示

<<賃貸・割賦事業>>

・売上高は、前年比1.9%減。アセットの利回り低下による粗利の減少や、倒産コストの増加もあり、営業利益は前年比29.3%減

<<営業貸付事業>>

・売上高は、前年比20.2%減となったものの、倒産コストの減少により、営業利益は前年比61.1%増

<<リサ事業>>

・売上高は前年比横ばい。営業利益についてはファンドのEXIT等により、前年比大幅増加の99億円

<<その他の事業>>

・売上高は前年比2.4%増。一方、満了・解約損益の悪化に伴う粗利の減少等により、20億円の営業損失

1. 2014年3月期 実績報告

5) 事業別契約実行高の状況(連結)

事業別契約実行高

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
賃貸・割賦事業	1,569	1,816	15.7%
賃貸事業	1,528	1,778	16.4%
割賦販売	42	37	▲10.7%
営業貸付事業	2,790	2,376	▲14.8%
営業貸付金	1,604	1,437	▲10.4%
一括ファクタリング	1,186	940	▲20.8%
その他の事業	30	36	21.0%
計	4,389	4,228	▲3.7%

事業別成約高

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
賃貸・割賦事業	1,806	1,837	1.7%
賃貸事業	1,764	1,797	1.9%
割賦販売	42	40	▲6.4%
営業貸付事業	2,791	2,372	▲15.0%
営業貸付金	1,605	1,433	▲10.8%
一括ファクタリング	1,186	940	▲20.8%
その他の事業	31	34	8.6%
計	4,629	4,243	▲8.3%

《契約実行高》

- ・賃貸・割賦事業においては、各種施策が奏功したことに加え、大口契約を獲得したこともあり、前年比15.7%増と伸長
- ・営業貸付事業については、一括ファクタの落ち込み等もあり、前年比14.8%減

《成約高》

- ・賃貸・割賦事業においては、前年年度末に大口契約を獲得したことから、前年比1.7%の微増
- ・営業貸付事業については契約実行高と同様の展開

1. 2014年3月期 実績報告

6) 賃貸・割賦事業の営業状況(連結 小口除く)

業種別契約実行高(除く小口)

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
官公庁	872	923	5.8%
民需	689	893	29.7%
サービス業	162	122	▲24.9%
流通業	151	156	2.9%
製造業	253	405	59.9%
その他	122	210	72.5%
計	1,561	1,816	16.3%
【参考】小口含む計	1,569	1,816	15.7%

業種別成約高(除く小口)

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
官公庁	897	932	3.9%
民需	901	904	0.4%
サービス業	164	131	▲19.6%
流通業	156	183	17.6%
製造業	293	361	23.3%
その他	289	229	▲20.8%
計	1,798	1,837	2.2%
【参考】小口含む計	1,806	1,837	1.7%

機種別賃貸事業契約実行高(除く小口)

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
情報通信機器	1,177	1,187	0.9%
電子計算機及び関連装置	503	536	6.6%
ソフトウェア	606	615	1.4%
通信機器及び関連装置	68	37	▲45.5%
事務用機器	34	52	54.0%
その他機器	351	577	64.5%
計	1,561	1,816	16.3%
【参考】小口含む計	1,569	1,816	15.7%

- 業種別の契約実行高は、官公庁が前年比増加
また、民需については、前年大口案件のあった
サービス業が前年割れとなったものの、今年大口案件
があった製造業は前年比伸長
- 契約実行高全体では、前年比15.7%増
- 成約高については、前年大口案件のあったその他
(運輸通信業)が前年割れとなった
- 成約高全体では、前年比1.7%増

1. 2014年3月期 実績報告

7) 営業貸付事業の営業状況(連結)(一括ファクタリングを除く)

契約形態別契約実行高

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
立替・APF・割賦バック	13	51	299.3%
個別ファクタリング	806	564	▲30.1%
診療報酬債権流動化	106	26	▲75.6%
企業融資	491	650	32.5%
その他	188	146	▲22.4%
計	1,604	1,437	▲10.4%

業種別契約実行高

(単位:億円)

	2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
官公庁	3	3	9.1%
民需	1,601	1,433	▲10.5%
サービス業	140	101	▲28.3%
流通業	220	95	▲57.0%
製造業	731	650	▲11.0%
金融業・保険業	114	164	44.2%
不動産業	79	127	60.5%
その他	317	297	▲6.3%
計	1,604	1,437	▲10.4%

・契約形態別の契約実行高については、診療報酬や個別ファクタリング等で前年割れとなるものの、企業融資については前年比増加となる。営業貸付事業全体では、前年比10.4%減

・業種別では、リース取引に結び付く製造業に注力

1. 2014年3月期 実績報告

8) リサ事業の営業状況(営業利益)

(単位:億円)

		2013/3期 年間	2014/3期 年間	前年比
アセットビジネス	売上高	93	227	143.5%
	売上総利益	42	135	223.1%
	営業利益	22	110	391.5%
不動産	売上高	177	42	▲76.5%
	売上総利益	▲6	3	▲157.4%
	営業利益	▲11	▲1	-
アドバイザー	売上高	5	7	32.4%
	売上総利益	4	6	40.3%
	営業利益	1	1	-
連結ベース 計	売上高	276	276	0.1%
	売上総利益	42	144	247.7%
	営業利益	1	99	6,856.2%

連結ベースでの収益貢献拡大

<<アセットビジネス>>

- ・大型の営業投資有価証券売却により、営業利益は前年比大幅増

<<不動産>>

- ・事業撤退に伴う保有不動産の売却売上減少、賃貸料収入減少により減収

<<アドバイザー>>

- ・官民ファンドの収益拡大により前年比増

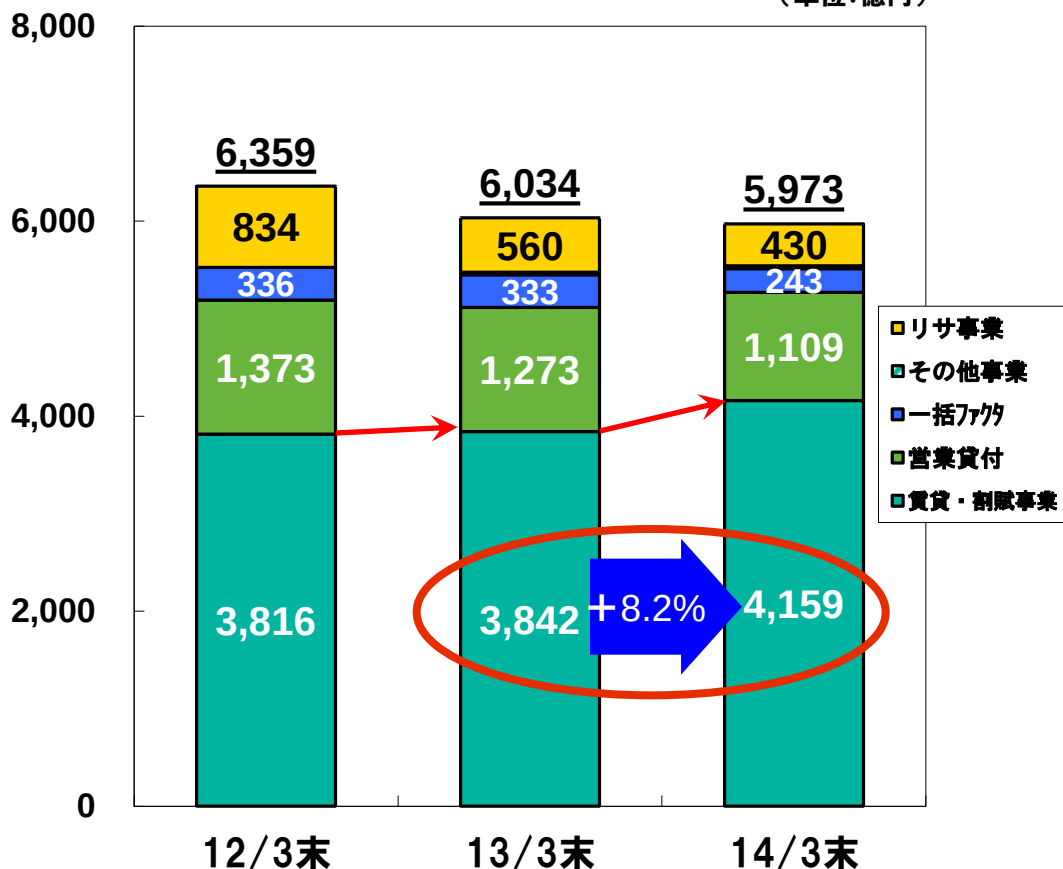
※「調整額(のれん償却費他)」は除いて表示

また、期ズレ案件については金額的なインパクトが大きいことからセグメントに計上

1. 2014年3月期 実績報告

9) 営業資産残高の状況(連結 小口除く)

(単位:億円)



<参考>

小口事業残高	678	454	219
小口含む 営業資産残高	7,037	6,488	6,192

<<営業資産残高>>

・小口事業を除く賃貸・割賦事業は、前期末比8.2%の増加

・営業貸付は163億円の減少

・【リサ事業内訳】

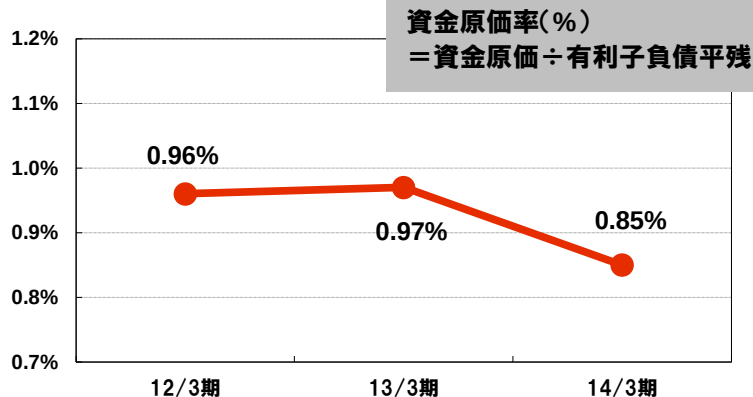
販売用不動産については、事業撤退に向けた取組の結果、減少となっている
営業投資有価証券については、大型の売却等があり、前期末比大幅に減少

	13/3末	14/3末	前年増減
販売用不動産	110	78	▲33
営業投資有価証券	105	21	▲83
買取債権	174	207	▲32
投資有価証券	98	43	▲55
営業貸付金	73	81	▲8
	560	430	▲130

1. 2014年3月期 実績報告

10) 資金調達の状況(連結)

資金原価率

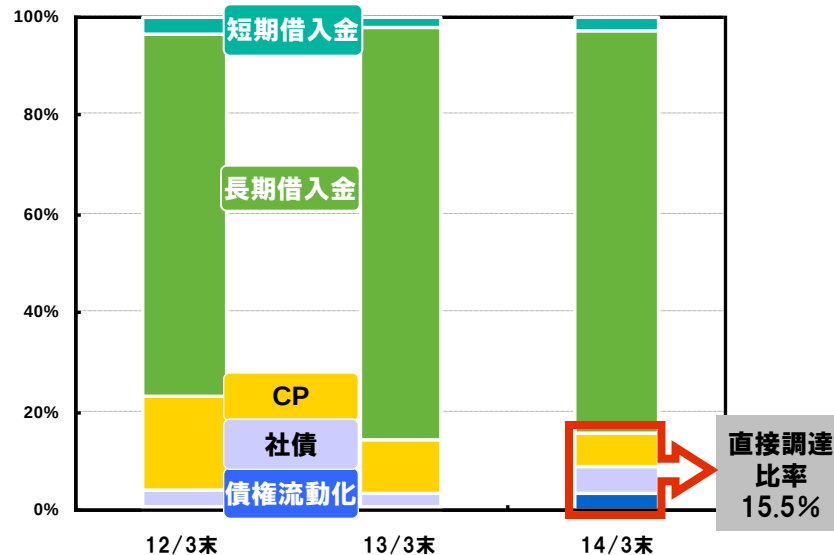


有利子負債残高

(単位: 億円)

	2013/3期		2014/3期		増減
		構成比		構成比	
短期借入金	133	2.2%	167	2.9%	35
長期借入金	5,119	83.5%	4,781	81.7%	▲338
CP	670	10.9%	370	6.3%	▲300
社債	150	2.4%	350	6.0%	200
債権流動化	59	1.0%	185	3.2%	126
計	6,131	100.0%	5,853	100.0%	▲278

有利子負債構成比



- 連結後の資金原価率は0.85%
⇒前年比12bp低下
⇒単体における有利子負債平残の低下に加え、グループ資金調達の一元化による、資金効率の改善を図った結果、前年比0.12%減となる
- 直接調達比率は増加
(2013/3末 14.3% → 2014/3末 15.5%)
※年限の長期化を目指し、1月に第4回社債を発行

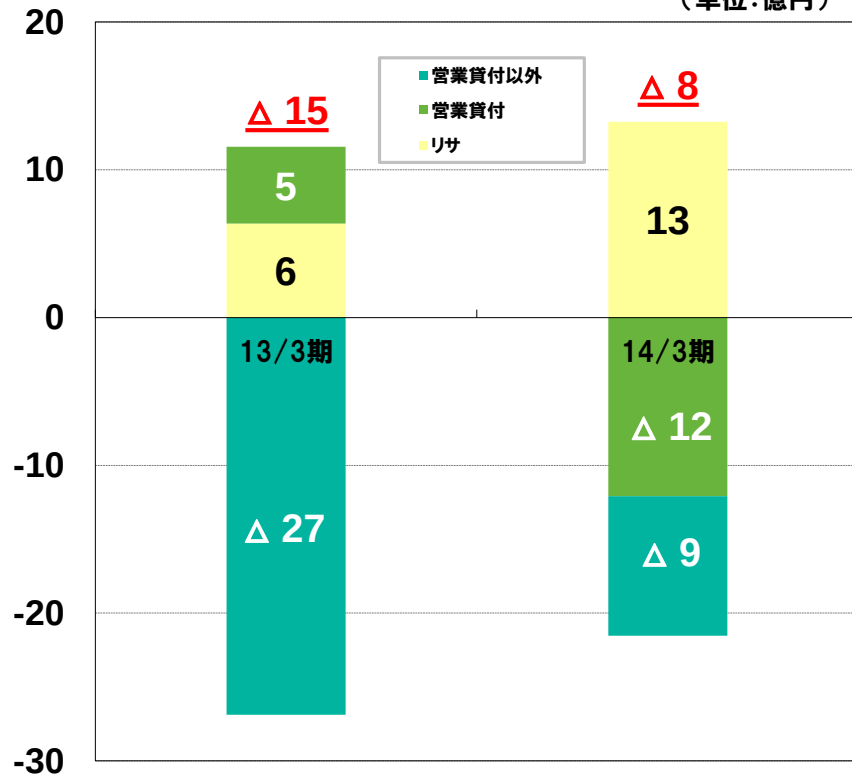
1. 2014年3月期 実績報告

11) 与信関連費用(連結)

- ・ 与信関連費用は、前年比7億円悪化(内、一般2億円悪化)
- ・ 個別引当費用は、一部の銘柄において予防的引当を行ったことにより、5億円の悪化

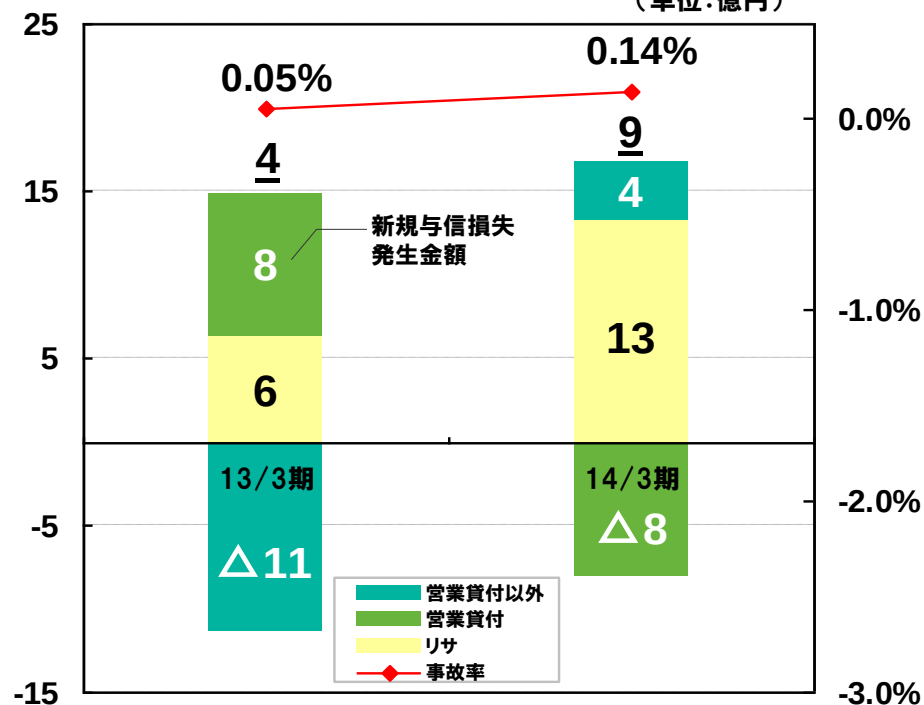
与信関連費用

(単位:億円)



個別引当費用

(単位:億円)



事故率(%) = 新規倒産損失発生金額 ÷ (営業資産平残 + 破産更生債権平残)
新規倒産損失発生金額 = 破産更生債権 + 懸念債権

2. 2015年3月期計画

1) 連結業績予想

連結業績予想

(単位:億円)

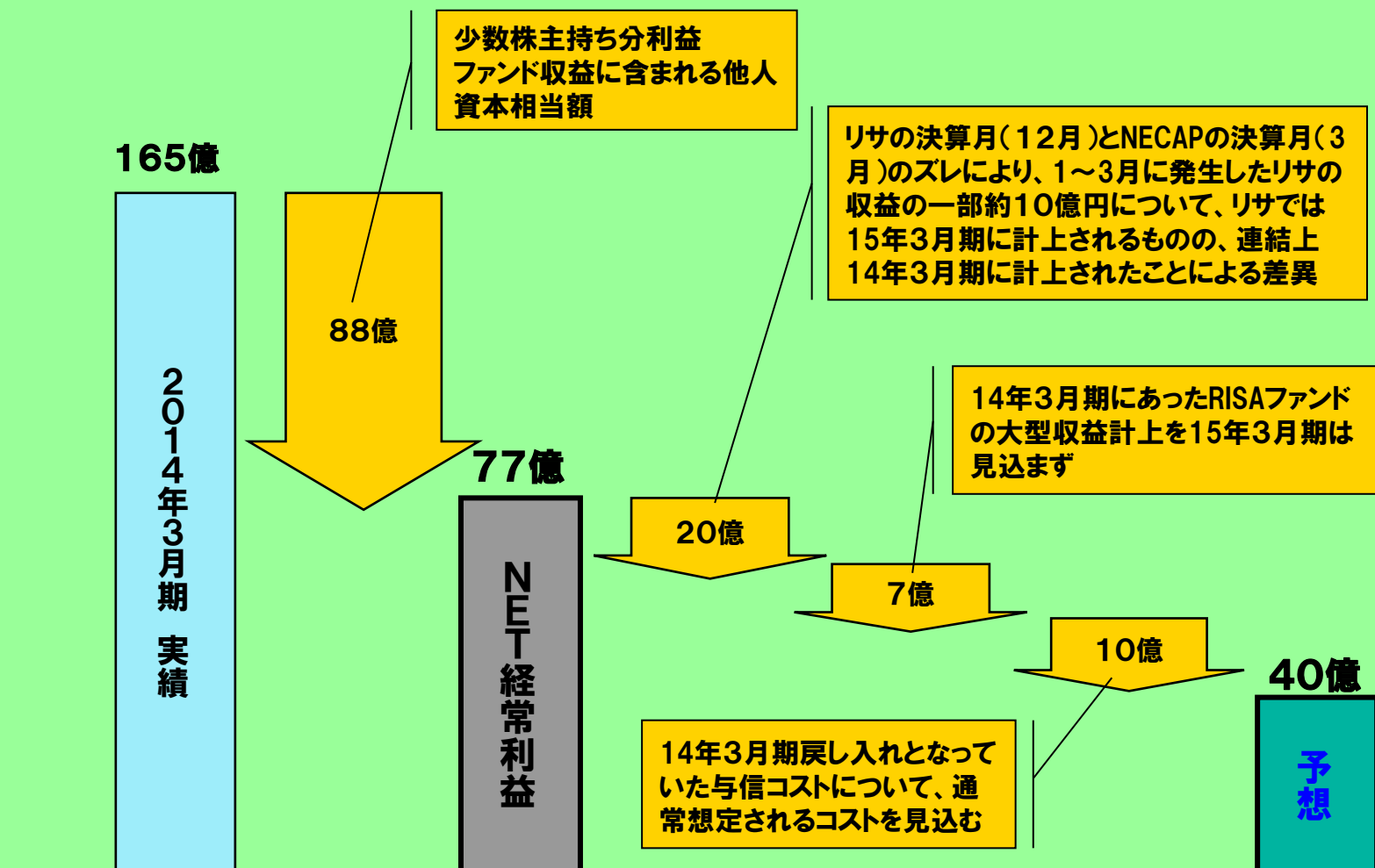
	実績	予想	
	2014/3期 通期	2015/3期 通期	増減
売上高	2,283	1,900	83.2%
営業利益	161	40	24.9%
経常利益	165	40	24.3%
純利益	50	20	40.1%
1株当たり純利益(円)	231円78銭	92円88銭	—

1株当たり配当金

	第2四半期末	期末	年間
2015/3期予想	22円00銭	22円00銭	44円00銭
2014/3期実績	22円00銭	22円00銭	44円00銭

2. 2015年3月期計画

2) 連結業績予想補足



2014年3月期の取り組み(成果と課題)

2014年3月期の4つの重点方針における実績

既存事業の強化

- 官公庁領域において、NECとのパートナーシップの更なる強化が図られ、前年を上回る営業実績の計上に結びついた。
- 事業法人営業の本格的な立ち上げを行い地方展開を実行すると共に、「相談型営業」が進展し、大型案件・高収益案件獲得に成功した。

新規事業への投資と回収

- 海外現法を3ヶ国に立ち上げ、NECの海外事業との連携を開始した。
- ICT事業領域の収益力が向上し、利益貢献が果たせるようになった。
- PFI事業への取り組みを行い、ノウハウの蓄積を行った。
- パートナーシップの強化による協業事業への取り組みを行った。

リサ事業の更なる安定化

- ファンド事業において大型の案件売却を行い、グループの利益拡大に貢献できるようになった。本社移転を機にNECAPとの一体経営を加速した。

全社横断的な費用削減とスタッフ施策の強化

- グループ資金調達の一元化による資金効率の改善を図り、資金原価低減を行うことができた。
- 審査機能強化によるリスク管理を徹底し、与信コストの抑制につなげた。
- 本社統合によるグループ各社の連携強化を図ると共に、各種費用削減を実現した。
- 基幹システムの刷新を行い、業務効率の向上を図った。
- 10年後のグループビジョンを策定し、ビジョン実現に向けた施策を新中期計画へ反映した。

2014年3月期の取り組み(成果と課題)

今後の課題

異次元の金融緩和政策下における競合激化に対して各種施策の取り組みを開始しているものの、収益力向上に結びつくまでには今しばらくの時間が必要である。この状況を打開するためには、新中期計画最終年度の目標数値実現を目指すべく、各種施策の実行によって1年ごとに収益力向上を果たすことがポイントとなる。

総括

2008年に「リースの、その次へ」というコンセプトを公表し、各種施策に取り組んできた結果、リサの収益貢献をはじめ、一定の成果を得る事が出来た。その成果をさらに膨らませ、成長に結びつけて行くべく、グループビジョンを策定し、新中期計画の構築に取り組んだ。

本資料に記載されている株主・投資家向け情報は、投資勧誘・保証を目的として作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、ご利用者ご自身のご判断において行われるようお願い致します。

本資料に記載されている当社の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。

また、本資料に記載されている経営目標は予想ではなく、将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものでもありません。むしろ、経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績等は、さまざまな要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、当社の事業領域を取り巻く経済情勢及び規制や法令の変更、潜在的な法的責任、当社のサービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力などがありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷などにより、実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

当社による将来予測に関する記述は、その日現在のものであることをご承知おきください。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、リスクや不確定要因があるため、将来予測に関して記述されていることが実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することは控えるようお願いします。

Orchestrating a brighter world

世界の想いを、未来へつなげる。

**未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。**

**NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ類のないインテグレーターとして
リーダーシップを発揮し、卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。**

Empowered by Innovation

NEC